

国境を越えた自然な“おつきあい”

国際交流協会ともだちin名取

国際交流協会ともだちin名取（以下、ともだちin名取）は、平成19年4月、名取市から海外への中学生派遣事業の協力者を中心に、30名のボランティア団体として発足しました。名取市民が海外出身者とお互いの母国文化を学び合いながら共生していくことを目的に、日本語講座と多文化交流会を開催しています。

日本語講座では、日本語が苦手な海外出身者8ヶ国約25名が1年を通して学び、日本語検定に合格する講座学習者も年々増加しています。このプログラムには、託児のためのボランティアもいるので、子ども連れでも安心して参加できます。また、学習支援者は、宮城県国際化協会等が行う日本語指導の研修を受け、常にスキルアップを図っています。

多文化交流会では、海外出身者が講師となり、民族衣装で踊ったり、母国料理を持ち寄り紹介するなどの活動を行っています。



日本語講座は休憩をはさみながら和やかに

地域で育む国際交流

ともだちin名取では、発足当初からそれぞれの国の文化や国民性、宗教上の制約などに配慮をしながら、個人のありのままを尊重することで、無理なく自然におつきあいすることを大切にしてきました。たとえば、誰でも気軽に参加できるような七夕やクリスマス、餅つきなどの行事体験や、墨画、餃子作り、田植え稲刈り体験などを行い、地域の人達との交流を図っています。たくさんの仲間と楽しく過ごすことで、お互いの先入観が取り払われ、自然なおつきあいができるようになります。

このように、海外出身者やその家族が、日本語の理解が十分ではないために孤立感や疎外感を抱

かぬよう、日ごろから隣近所や地域の人たちと顔見知りになるきっかけづくりをしています。



地域の人も交えてたくさんの家族が集います

国境を越えて人とつながる

東日本大震災の時には、動けるスタッフから近く避難所運営の支援を始めました。混乱が続くなか、海外出身者にも状況がわかるように母国語のお知らせを各所に貼るなど、細やかな工夫を続けました。

また、海外出身者の安否確認が進まないなか、ともだちin名取の日本語講座の学習者一人に連絡が取れると、その一人からつながる何人もの安否確認ができたということがありました。

会長の小島秀太郎さんは「普段から家族ぐるみのおつきあいを大切にしてきたことが、海外出身者の安全確保と不安軽減につながりました。改めて県内外から、ともだちin名取の活動に注目と信頼が寄せられるようになりました」と、当時を振り返ります。

ともだちin名取では、今後も国籍を超えて誰もが地域とつながり生活できるように、国際交流の場づくりを広めていきます。現在、国際交流に興味のあるボランティアスタッフを募集中です。

国際交流協会ともだちin名取

〒981-1232 名取市大手町5-6-1

名取市市民活動支援センター事務室C

TEL：080-5226-5931

FAX：022-382-0841

E-mail：tomodachi_in_natori@yahoo.co.jp

URL：http://blog.canpan.info/tomo_in_natori/